

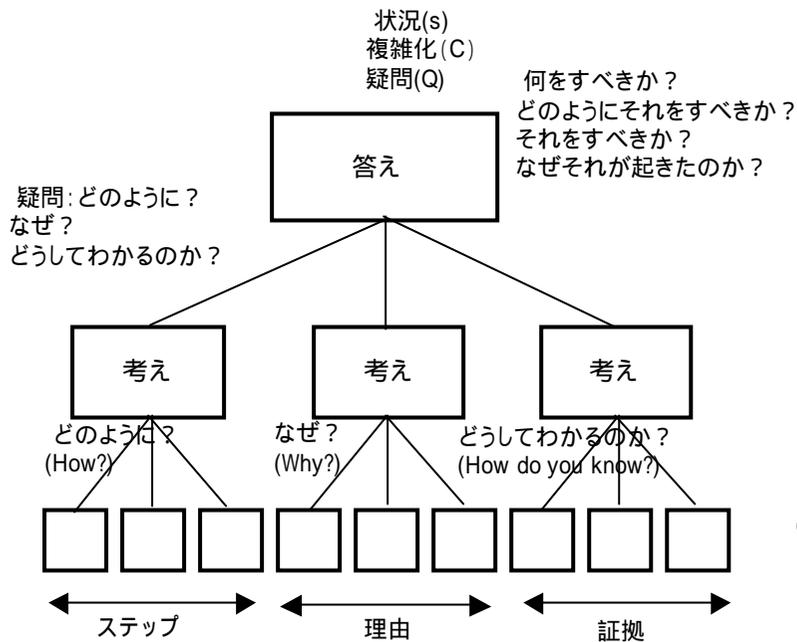
コースコンセプトの要約

導入部は読み手に対し、読み手が既に知っていることを語る

主ポイントは読み手の疑問に答える
(ほとんどの場合、読み手の疑問は4つのいずれかになる)

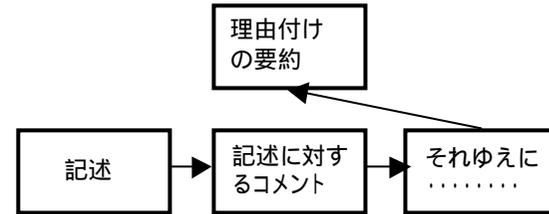
主ポイントに対し、読み手の頭の中に3つの疑問のどれかが発生する

ピラミッドは、縦方向に、読み手との間でQ & Aを繰り返す
(Q)どのように? (How?) (A)ステップ
(Q)なぜ? (Why?) (A)理由
(Q)どうしてわかるのか? (How do you know?) (A)証拠



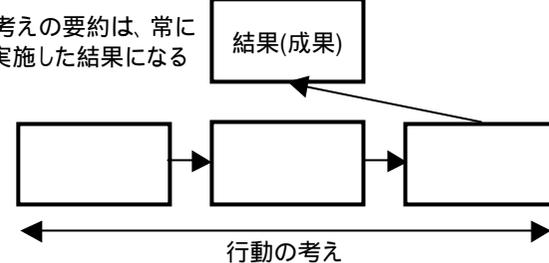
MECE
Mutually お互いに
Exclusive 排他的で
Collectively 集めると
Exhaustive 全てを尽くす

演繹的な理由付けでは、第2ポイントが第1ポイントについて意見を述べる

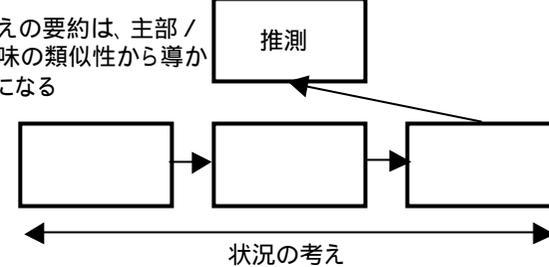


帰納的な理由づけでは、各ポイントが同じ種類の考えになる

行動の考えの要約は、常に行動を実施した結果になる



状況の考えの要約は、主部/述部/意味の類似性から導かれる推測になる



ファラシー
(ロジックの誤り)
一般論の拡大
性急な一般化
後知恵(雨男)
相反する前提
(神が持てない石を作る)
同情への訴え
誤った類推
(状況の違うものからの類推)
事実に反する仮説
井戸に毒を入れる
(彼は嘘つきだ、と先に言う)

帰納的な理由づけは、3つの構造のいずれかを反映している

